

# 令和元年度第2回保護林管理委員会 現地検討会資料

【参考資料1】



令和元年10月23日  
九州森林管理局

## 現地検討会の視察ルート

第2回委員会は、保護林内のシカ被害の現状について、モニタリング調査だけではなく、実際に保護林の被害現地を視察し、今後の保全対策の有益な示唆を得ることとしたもの。

10月23日

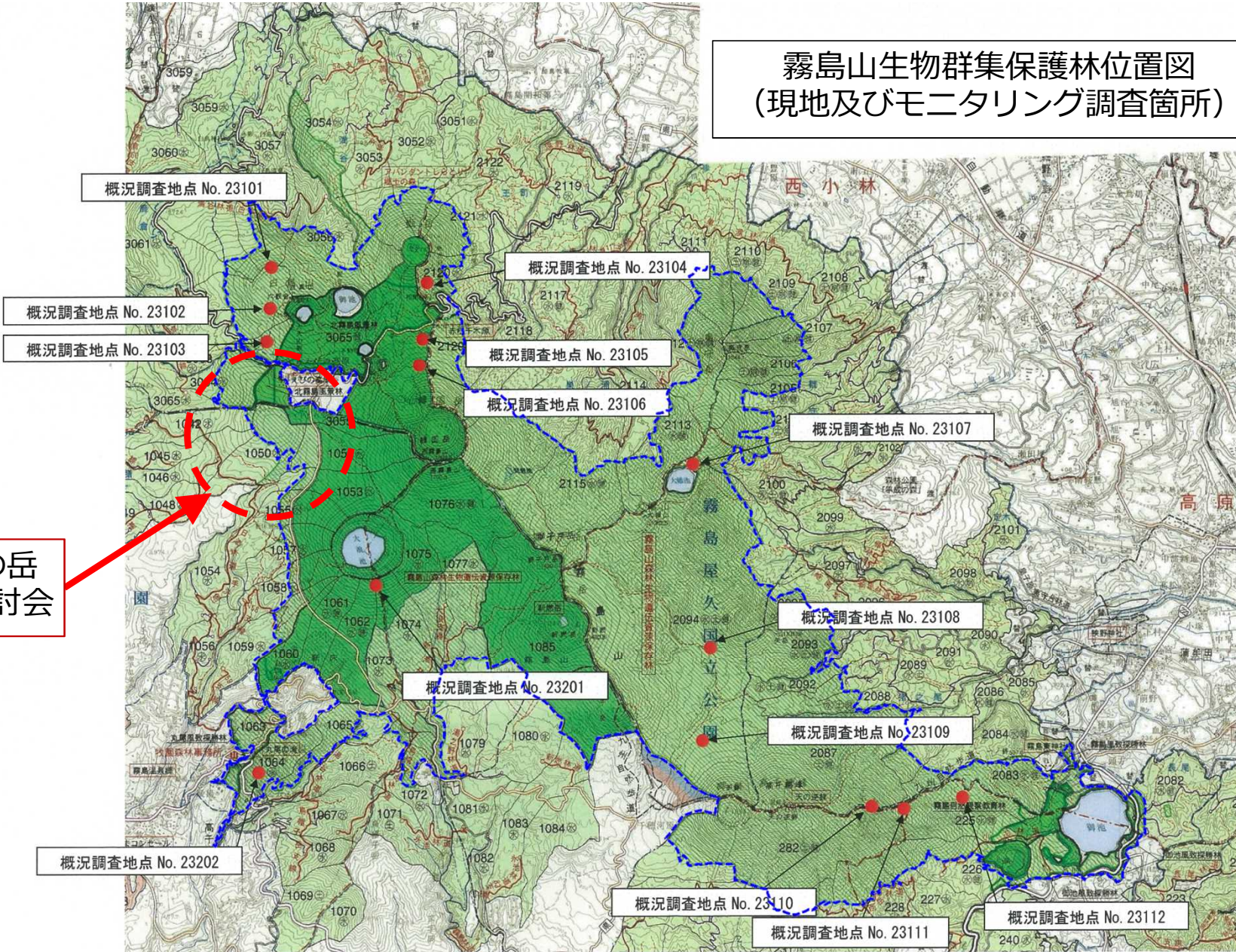
時 間	内 容	備 考
13:00	各地よりえびの高原駐車場に集合	
13:00 ~ 13:10 (0:10)	えびの高原駐車場に集合	トイレ等
13:10 ~ 13:20 (0:10)	日程、現地概要の説明	事務局、該当署等
13:20 ~ 15:20 (2:00)	<b>霧島山生物群集保護林</b> 視察 (意見交換含む)	えびの岳登山道(徒歩) (3055、1050林班)
15:20 ~ 15:30 (0:10)	下山確認等(えびの高原駐車場)	着替え・トイレ等
15:30 ~ 16:00 (0:30)	えびのエコミュージアムセンター (施設見学)	環境省ビジットセンター
16:00 ~ 17:00 (1:00)	車移動	
17:00	宿着(アバホテル鹿児島)	

## 令和元年度 第2回九州森林管理局保護林管理委員会 出席者名簿

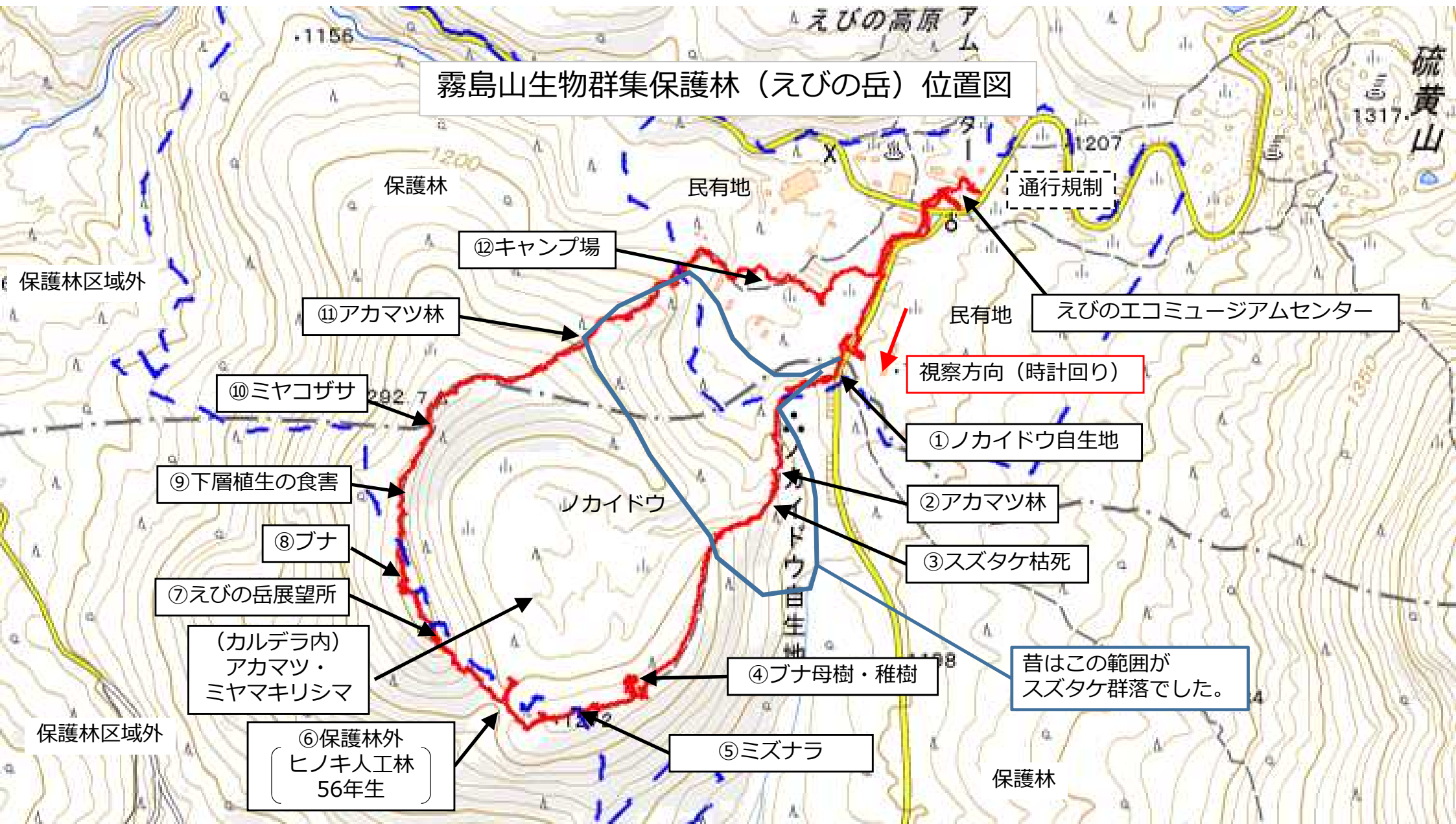
	氏名	所属・役職	出欠		氏名	所属・役職
委員	伊澤 雅子	琉球大学 理学部長	欠席	九州森林管理局	藤岡 義生 (オブ)	経営企画課 国有林野生態系保全室 森林環境保護班 課長補佐
	岩本 俊孝	宮崎大学 名誉教授			原田 隆行	局長
	河野 耕三	綾町役場 エコパーク推進室 照葉樹林文化推進専門監			井口 真輝	計画保全部長
	佐藤 和歌子	特定非営利活動法人 森林をつくろう 理事長	欠席		河邊 喬	計画課長
	陣川 雅樹	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 九州支所長	欠席		鎌水 隆憲	計画課 生態系管理指導官
	浜本 奈鼓	特定非営利活動法人 くすの木自然館 代表理事	欠席		松永 雄治	計画課 企画官 (森林資源評価担当)
	平井 郁明	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場長	欠席		下崎 哲也	計画課 森林施業調整官
	藤掛 一郎	宮崎大学 農学部 教授			岩下 治喜	計画課 経営計画官
	横山 隆一	公益財団法人 日本自然保護協会 参与			藻川 瑞穂	計画課 生態系保全係
	米田 健 (委員長)	鹿児島大学 名誉教授			樋口 浩	計画課 行政専門員
(委員50音順、敬称略)					犬童 伸博	宮崎森林管理署都城支署 総括森林整備官
				環境省	原澤 翔太 (オブ)	えびの管理官事務所 国立公園管理官
				受託者	中園 朝子	(株)九州自然環境研究所 所長
			城戸 美智子		(株)九州自然環境研究所	
			有馬 宏幸		(株)九州自然環境研究所	

霧島山生物群集保護林位置図  
(現地及びモニタリング調査箇所)

えびの岳  
現地検討会



凡 例	
保護林	
鳥獣保護区 特別保護地区	
国有林	





# 視 察 箇 所 ①

ノカイドウ自生地

植生保護柵



植生保護柵内は、  
スズタケ等が回復



「ノカイドウ」はえびの高原のみに自生し、環境省絶滅危惧 I B 類及び天然記念物に指定されている。  
1997年に384本の個体が確認されたが、2018年までの21年間に1/3以上が枯死し、前期確認個体数のうち、現在も生存しているのは226本となっている。今後40年で個体数が0になるおそれがある（シカ被害の影響が大きい）。  
1998年から稚樹の保護を行い、上記とは別に現在の稚樹生存本数は338本となっている。  
2011年からシカ食害防止のため、約250本の個体にネットを設置している。

## 視 察 箇 所 ②

アカマツ林



マツ枯れ枯損木が散見される  
周辺にも松枯れが進行している

ススキの食害



西側ではススキ新芽の食害あり





# 視察箇所③

## スズタケ枯死



以前はスズタケに覆われていたが、  
現在はスズタケ残穢が見られた

## スズタケ稚樹



スズタケの稚樹が希に見られる



# ブナ 視 察 箇 所 ④ ブナ稚樹



ブナが生育する標高の周辺では、  
僅かにブナの稚樹が見られたが希である。  
祖母山や白髪岳など九州各地でブナ林の衰退が進んでいる。

# 視 察 箇 所 ⑤

ミズナラ食害

ハイノキ



ミズナラの萌芽食害が見られる。



林床にはシカの忌避植物のハイノキが多く見られる



# 視 察 箇 所 ⑥

ヒノキ剥離被害 (保護林区域外)

シキミ



保護林周辺のヒノキ人工林の  
樹皮剥離被害



下層植生は忌避植物のシキミ・  
ハイノキ・ツツジ類が多い



# カルデラ内

アカマツ・ミヤマキリシマ

沢



アカマツは樹高が低いので若齢と考えられる



カルデラ中央部の沢には水があり、シカの水飲み場となっている（過去にはもっと多くの水流が見られた）。シカを数頭確認した。



# えびの岳展望所 ⑦

シロモジ・ミヤマキリシマ等



ウラジロモミ



# 視察箇所⑧

ブナ

萌芽の食害



# 視 察 箇 所 ⑨

下層植生の衰退



林床は下層植生が殆ど無いところも多い

食害跡





# 視 察 箇 所 ⑩

ネジキの食害



ミヤコザサの開花



タケやササ類は開花すると、  
広く枯死すると言われている。

# 視 察 箇 所 ⑪

歩道の状況

アカマツ



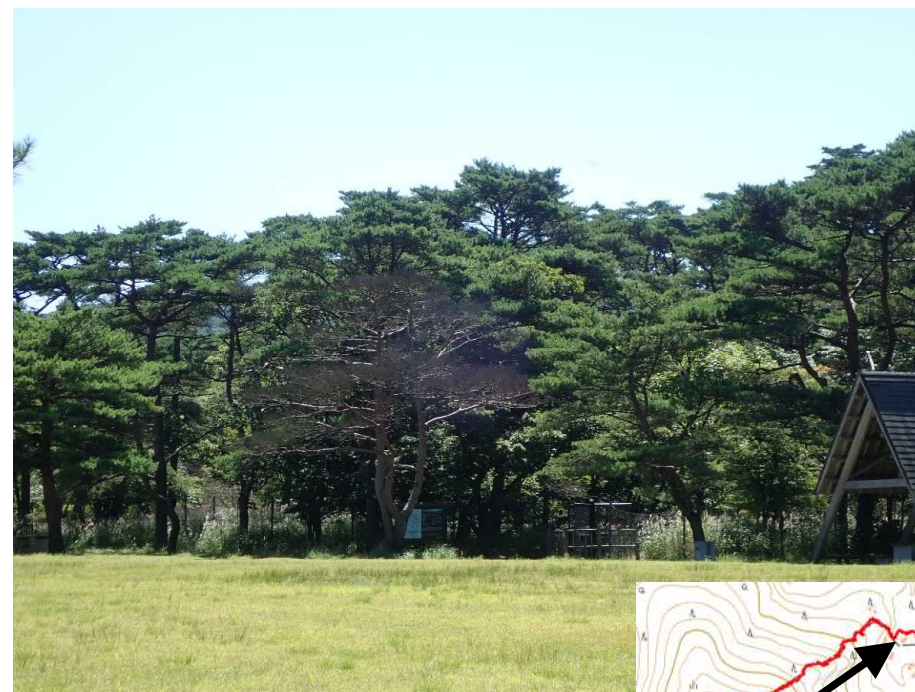
登山道の原状復旧の状況



# 視察箇所⑫

キャンプ場

マツ枯れ



キャンプ場の芝生では、シカの糞が多い  
芝がシカのエサ場となっている。

# えびの岳登山道周辺の植物

\*シカ忌避植物



ノカイドウ



ミヤマキリシマ\*



アカマツ



ツタウルシ\*



シキミ\*



ミスナラ (稚樹)



ハイノキ\*



コミネカエデ



ブナ (稚樹)



ヤドリギの実



ウリハダカエデ



コウガクウツギ

# えびの岳登山道周辺の植物 \*シカ忌避植物

